

「専修学校フォーラム2019」

参加者アンケート結果

(平成31年2月7日、8日)

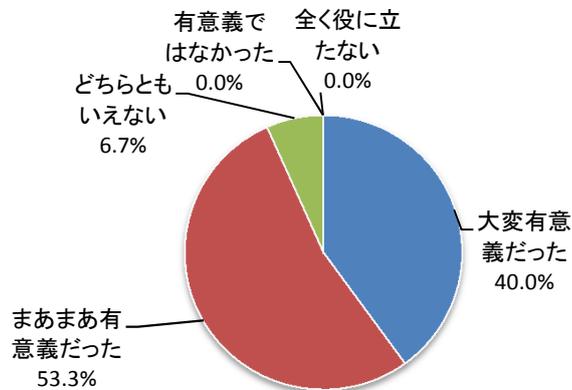
- 参加者数: 103 名
- 回答者数: 20 名
- 回答率: 19.4 %

一般社団法人全国専門学校情報教育協会

問1. 全体会について

1. 基調講演「Society5.0における経済産業省の人材育成政策」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	6	40.0%
まあまあ有意義だった	8	53.3%
どちらともいえない	1	6.7%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	15	100.0%

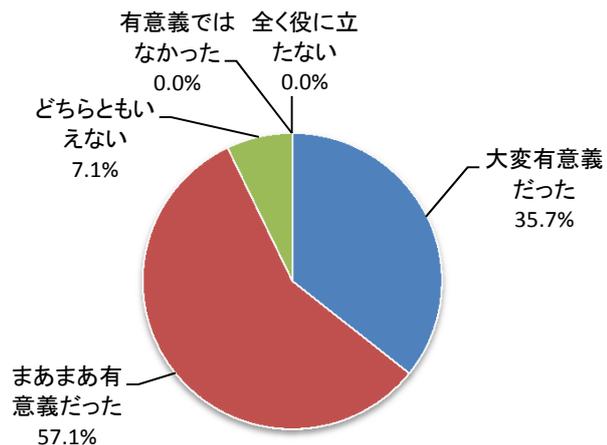


《 評価の理由 》

- ・Society5.0、DXを想定した政策を確認できた。ITパスポート試験の活用の重要性も再確認した。
- ・経産省から見たAI、ビッグデータを利用した経済の活性化を企業現場でどのようにビジネスに結びつけて行くか、特にITパスポートレベルを現場のスキルとする。
- ・今後のIT人材不足に対して、改めてIT人材育成の必要性を実感した。
- ・今後の経済産業省の人材育成の展望を聞くことができよかった。
- ・システム刷新とAI戦略等関心があったため、参考になった。
- ・新技術(ビッグデータ・人工知能・IoT)の知識を持った人材で、サービスの実現力のある人材にニーズがある。
- ・より正確に政策内容を確認できたこと。
- ・来年度の事業計画が理解できた。
- ・レガシーシステムのリプレースの課題に対し、ITSS技術者試験のリプレースへ行けない。
(+の追加と内容の修正のみ)でどう対応していくのか不明確だった。

2. 「産業界の人材育成、今後必要となる人材像」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	5	35.7%
まあまあ有意義だった	8	57.1%
どちらともいえない	1	7.1%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	14	100.0%



《 評価の理由 》

- ・AIに代替されない人材について、現在のIT企業の意見は参考となった。
- ・IT PASSPORTも大切ですが、技術者を育成する為には、FE以上の話が欲しかったです。
- ・ITパスポートの話が多かった。もっと来年度の話が欲しい。
- ・企業の人材育成と、今後求められる新しいIT人材を知ることができた。
- ・具体的に企業が求める人材についてお話があり、参考になりました。

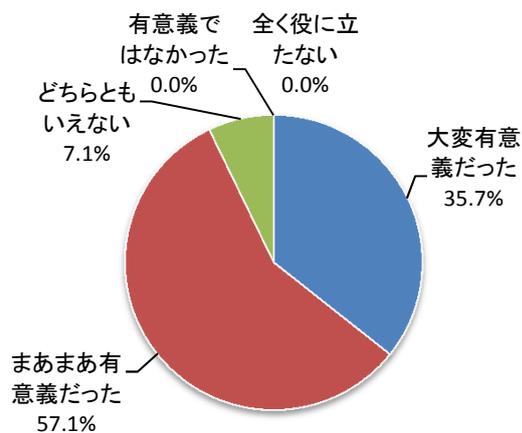
(次ページへ続く)

- ・コンピテーションからスキル、ナレッジへと成長していく中で、最終的にナレッジ(経験・体験)が必要である。これはAI社会との共存、人間中心社会になる。
- ・産業界の人材育成について、聞くことができた。専門学校として、どのような教育を行っていったら良いかのヒントになりました。
- ・将来像を簡単に説明。
- ・専門学校としての今後の育成カリキュラム検討に役に立った。
- ・とがった人材が必要なのは分かるが、全員がとがる訳にはいかないので、教育・人材育成の中で、どうやっていくのが課題だと思う。
- ・求める産業界の人材像を明確化できたこと。

3. . パネルディスカッション

「新たな社会Society5.0時代に向け目指す人材育成とは」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	5	35.7%
まあまあ有意義だった	8	57.1%
どちらともいえない	1	7.1%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	14	100.0%



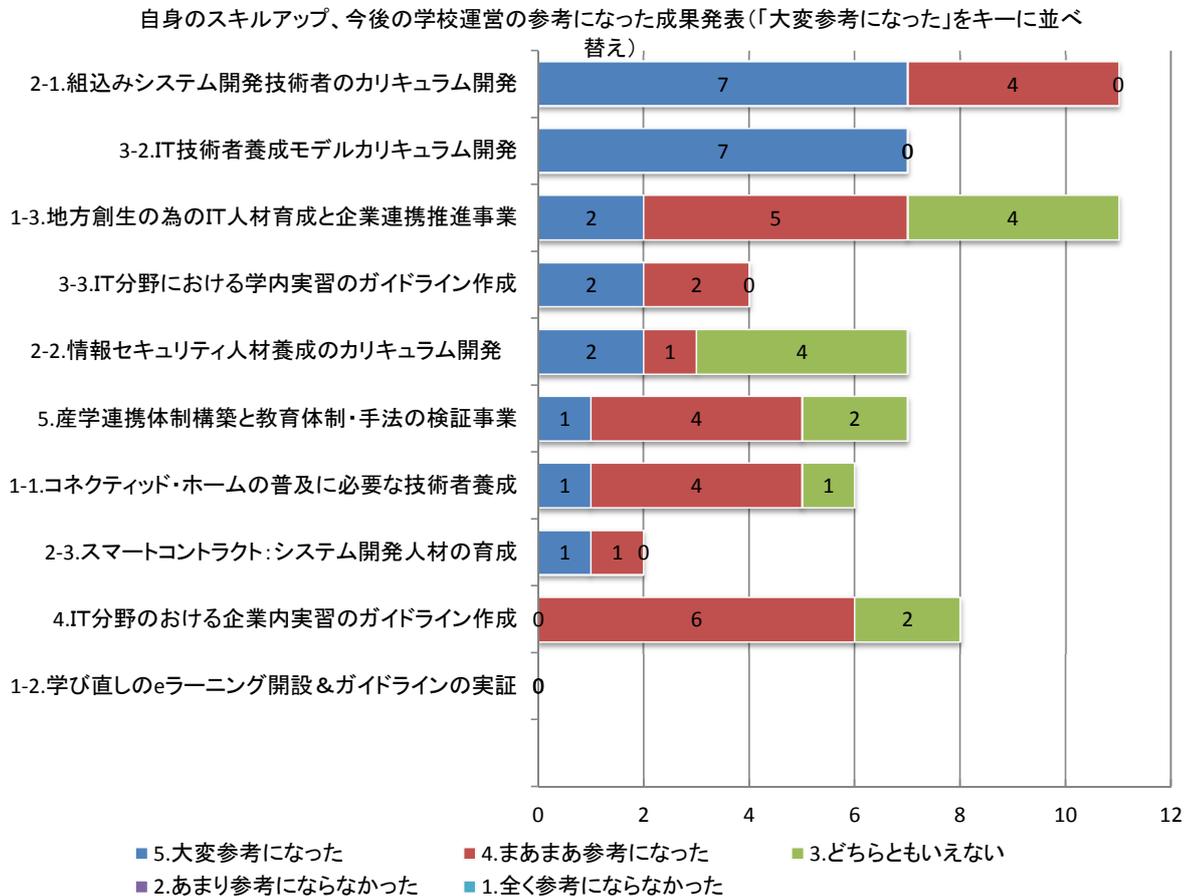
《 評価の理由 》

- ・Society5.0社会がどうなるのか分からないので、難しいが、現在の課題とその取組みが紹介されたのは良かった。
- ・企業TOPの求める人材の本音が聞けました。
- ・企業が求める人材と学校教育の中でミスマッチがある。これをうめるのは大変である。率直な意見がありよかった。
- ・企業側・教育側、双方の意見を聞くことができてよかった。
- ・企業と学校の学生に対する認識の差について確認できた。
- ・企業の求める人材と、専門学校に求める教育の学校側と企業側のギャップを確認できたこと。
- ・木田さんの振りが的確なので、パネラーのお話から人材育成の必要性と方法の見通しができた。
- ・コンピテンシーを高めるには、環境を与え、体験させることが大切である。
- ・どんな人材が社会で求められるのかが理解できた。
- ・パネラーの考え方についてより現実的に深く内容を理解できたこと。

問2. 文部科学省プロジェクトの成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(「大変参考になった」をキーに並べ替え)



(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

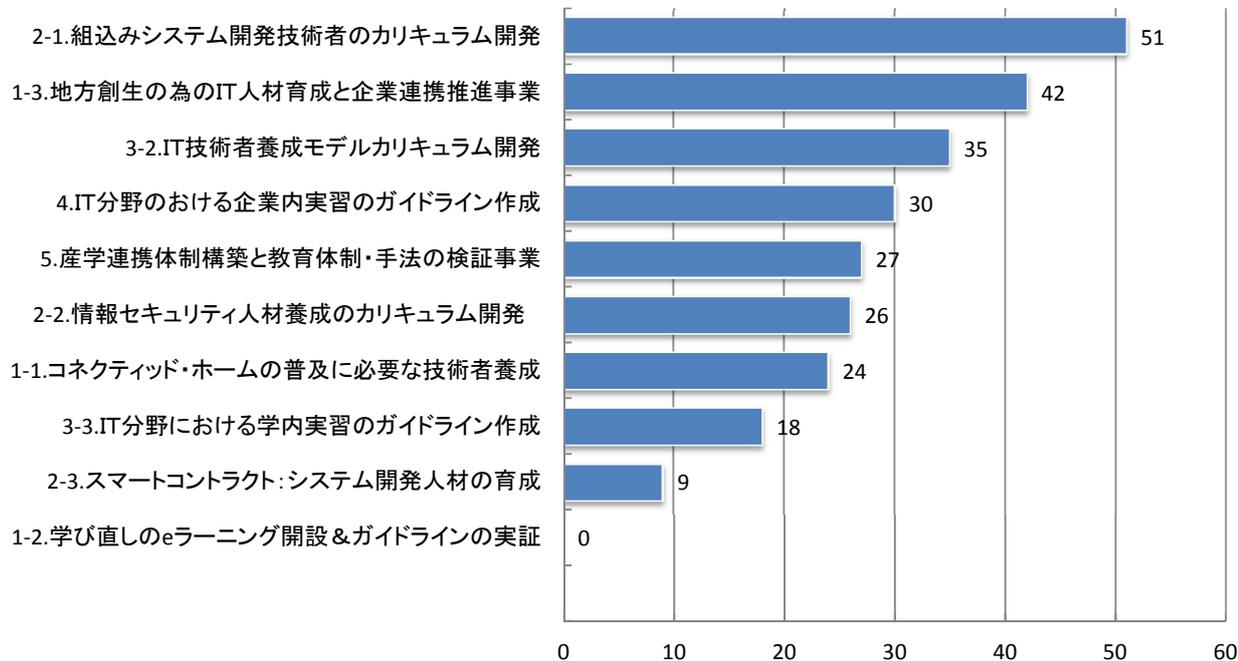
委託事業名	5. 大変参考になった	4. まあまあ参考になった	3. どちらともいえない	2. あまり参考にならなかった	1. 全く参考にならなかった
2-1. 組込みシステム開発技術者のカリキュラム開発	7	4	0	0	0
3-2. IT技術者養成モデルカリキュラム開発	7	0	0	0	0
1-3. 地方創生の為のIT人材育成と企業連携推進事業	2	5	4	0	0
3-3. IT分野における学内実習のガイドライン作成	2	2	0	0	0
2-2. 情報セキュリティ人材養成のカリキュラム開発	2	1	4	0	0
5. 産学連携体制構築と教育体制・手法の検証事業	1	4	2	0	0
1-1. コネクティッド・ホームの普及に必要な技術者養成	1	4	1	0	0
2-3. スマートコントラクト: システム開発人材の育成	1	1	0	0	0
4. IT分野における企業内実習のガイドライン作成	0	6	2	0	0
1-2. 学び直しのeラーニング開設&ガイドラインの実証	0	0	0	0	0

問2. 文部科学省プロジェクト成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(順位をポイント化した総合順位)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(順位をポイント化した総合順位)



(順位をポイント化した総合順位)

※ポイントとは→5.大変参考になった=5 4.まあまあ参考になった=4 3.どちらともいえない=3
2.あまり参考にならなかった=2 1.全く参考にならなかった=1

委託事業名	5.大変参考になった	4.まあまあ参考になった	3.どちらともいえない	2.あまり参考にならなかった	1.全く参考にならなかった	総合ポイント	総合順位
	(5p)	(4p)	(3p)	(2p)	(1p)		
2-1.組込みシステム開発技術者のカリキュラム開発	35	16	0	0	0	51	1
1-3.地方創生の為のIT人材育成と企業連携推進事業	10	20	12	0	0	42	2
3-2.IT技術者養成モデルカリキュラム開発	35	0	0	0	0	35	3
4.IT分野における企業内実習のガイドライン作成	0	24	6	0	0	30	4
5.産学連携体制構築と教育体制・手法の検証事業	5	16	6	0	0	27	5
2-2.情報セキュリティ人材養成のカリキュラム開発	10	4	12	0	0	26	6
1-1.コネクティッド・ホームの普及に必要な技術者養成	5	16	3	0	0	24	7
3-3.IT分野における学内実習のガイドライン作成	10	8	0	0	0	18	8
2-3.スマートコントラクト:システム開発人材の育成	5	4	0	0	0	9	9
1-2.学び直しのeラーニング開設&ガイドラインの実証	0	0	0	0	0	0	10

②参考になった、印象が強かった理由:

■1-3

- ・調査報告の内容は 一社)を立ち上げたものとしては大変納得したものであった。
- ・アジャイル開発を地域創生として専門学校が関わることに感心した。

■2-1

- ・教材の開発手法・内容が参考となった。
- ・IoTの基本を分かりやすく学生に対して興味を引く教材であると考えたので。
- ・技術は多岐にわたるが、最先端を求めるものではない。技術の進歩に浮足経たず、基本をおさえる。プロジェクト型学習が効果的。
- ・必要とされる技術(企業ヒアリング内容)は今後のシラバス作成に役立つ。
- ・IoTへのドリルは今後実験実習に利用可能。

■2-2

- ・新規事業に取り組んでいく姿勢とその必要性など。
- ・今後の教材開発に期待したい。
- ・情報セキュリティの実態調査によって、セキュリティ人材養成のカリキュラム作成の方向性が知れた。
- ・セキュリティ対策 ・ネットワーク接続脅威について、今後重要なことがよくわかった。
- ・調査研究センターであり、次年度以降に期待したい。

■2-3

- ・教材を開発し、実証授業を実施し、その結果をフィードバックする点が参考となった。

■3-2

- ・様々な学校が行ってきているAI学科の動向がわかった。

■3-3

- ・インターンの現状や学校側・企業側の考え方などを知ることができた。
- ・その後の全体会でも、また別の面からインターンについて考えることができました。
- ・デュアル教育は職業実践専門課程を継続していくことであり、メリットを再確認できた。

■4

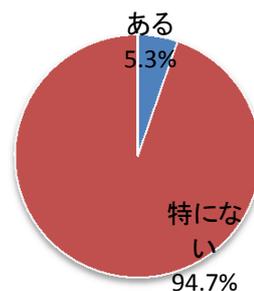
- ・学生と企業とのマッチングは難しいですね。
- ・企業内実習におけるコーディネーターの必要性とともにその体制や組織の構築。
- ・学内でできない実務的な事を経験させたいが、コンプライアンスの制約や、受入れ人数、期間等、お互いに合わない事が多い。
- ・インターンシップのあり方を今後どうするか、コーディネータという存在が大きく変えることができるのではと感じた。

■5

- ・5年で大きく社会環境変化することを早く体制に組み込まなくてはなりませんね。
- ・産学連携の課題と成功事例など
- ・企業と連携して教材作成が行われていることは求める人材育成の近道になる。

問3. 今後、文部科学省プロジェクト等で取り組みたい事業やテーマ

NO	回答	回答数	%
1	ある	1	5.0%
2	特にない	18	90.0%
3	検討中	1	5.0%



■具体的な内容:

- ・高大接続改革と専修学校(専門学校)との関連。大規模なCBTなど。
- ・内容によるが前向きに検討したい

■本会からの情報提供や連携校の紹介などのご希望がありましたら具体的にお知らせください。

- ・文科省等の委託事業の案内をしてほしい。

問4. 御校で課題となっている事項やお悩みの点、希望する研修テーマなど

- ・AIの取り組みを行い始めている。その中で専門学校様と連携しお力になればと考えている。
- ・iCD、ITSSの活用について、研究があれば助かります。
- ・iCDタスクと企業実務
- ・時代の流れ、ITの活用分野の多様性が進んでいる中、参加者が少ないように思う。
各校への告知が文科省事業の採択の遅れ等で難しいと思うが、工夫が必要ではないでしょうか。

以上